

# キャベツの断面のふくらみの観察 ～愛着への気づきとその正体～

京都市立常盤野小学校第6学年  
F A

## 目次

|                   |           |
|-------------------|-----------|
| はじめに              | 3         |
| <b>観察</b>         | <b>5</b>  |
| キャベ長計づくり          | 8         |
| 準備物               | 8         |
| 作り方               | 8         |
| <b>実験1（成長の要素）</b> | <b>11</b> |
| 水分量に関する実験         | 11        |
| 日光に関する実験          | 13        |
| <b>実験2（切り方）</b>   | <b>17</b> |
| <b>結論と総合考察</b>    | <b>18</b> |
| <b>愛着について</b>     | <b>19</b> |
| <b>自己分析</b>       | <b>22</b> |

## 概要

### 1. はじめに

私が初めてoranjeに行ったとき、「これで何か調べて（作って）みて」とキャベツを出された。私は、キャベツを半分に切って断面に絵の具を塗り、キャベツスタンプをしてみた。半分のキャベツ同士をくっつけようとしてみると、断面がぴったり合わなかった。その切った後のキャベツの半分を暗冷室に1週間置いておいた。すると、断面から小さいキャベツの山のような物がでてきた。それをふくらみAと呼ぶことにして、キャベツの実験を始めた。

### 2. 実験と結果

キャベツは「刈り取られた後も完全に死んだわけではない」と聞いて、植物が水や日光を与えると育つと同じように、切ったキャベツも水や日光を与えればより育つと考え、次の実験を行うことにした。

#### ①水分量に関する実験

全体の50%が小さくなっていた。同じ箱に入れていたキャベツに水が移ってしまい、水の量が変わったことが原因だと考えた。そのため、キャベツをそれぞれ別の箱に入れて保管すると良いと考えた。

#### ②日光に関する実験

全体の75%が小さくなっていた。理由として、日光の熱（外の気温）によって乾燥し、キャベツが縮んだと考えた。それを解決するためには、日光に当てないものはそのまま暗冷室で保管し、日光に当てるものは時々日光に当たらないところに持って行って、乾燥しないようにする、日光に当てる時間の差についての実験を行うと良いと考えた。

#### ③切り方の実験

キャベツのふくらみが特に大きくなるキャベツ条件の1つとして、そのキャベ

ツに「芯があるかどうか」が挙げられる。芯の有無に関する実験をさらに詳しく行えば良いと思う。

また、キャベ長計はキャベツの大きさを測るときに役に立った。

### 3. 愛着

私は実験をしている間に、キャベツに対して愛着を感じた。それに気づいたのは、母に誘われスーパーマーケットに行くとなんだかキャベツが可愛らしく見えたのがきっかけだった。そのことをoranjeの先生に話していると、「愛着」という言葉が出てきた。その「愛着」について調べるために、キャベツの男の子が主人公の漫画を書くことにした。漫画を描いてセリフを抽出してみると、ほとんどの漫画は自分の身の回りで起こったことを題材にして描いていた。そして、長編漫画には必ず自分が実際に言った言葉があった。つまり、私はキャベツと自分を重ね合わせているということだと考えられる。

### 4. 自己分析

自分の生活の楽しさを順位付けすると  
1,ピアノ（自分と一体化）  
2,漫画（エンタメ）  
3,キャベツの実験（愛着）  
4,勉強（義務）  
になる。

私は、大体この4つで生活している。楽しくないと感じるものもあるが、その中からも楽しさを見出しながら生活している。

この自己分析で、改めて自分のものに対する思いを知ることができ、たくさんの知らなかった自分に気付いて、なんだか嬉しかった。

# 1.はじめに

初めてのoranje（2018年4月から私が通っている自由研究教室）の学びで「何でもいいから1つ調べるか、何かを作ってください」と、キャベツを出された。私はそこで、キャベツを切ってみた。切ったキャベツの断面にオレンジと黒の絵の具を片側ずつ塗り、スタンプに見立てて、紙に付けてみた。すると、黒を塗った方は2回スタンプをおしてもうまくできなかったが、オレンジで塗った方は1回で成功した。

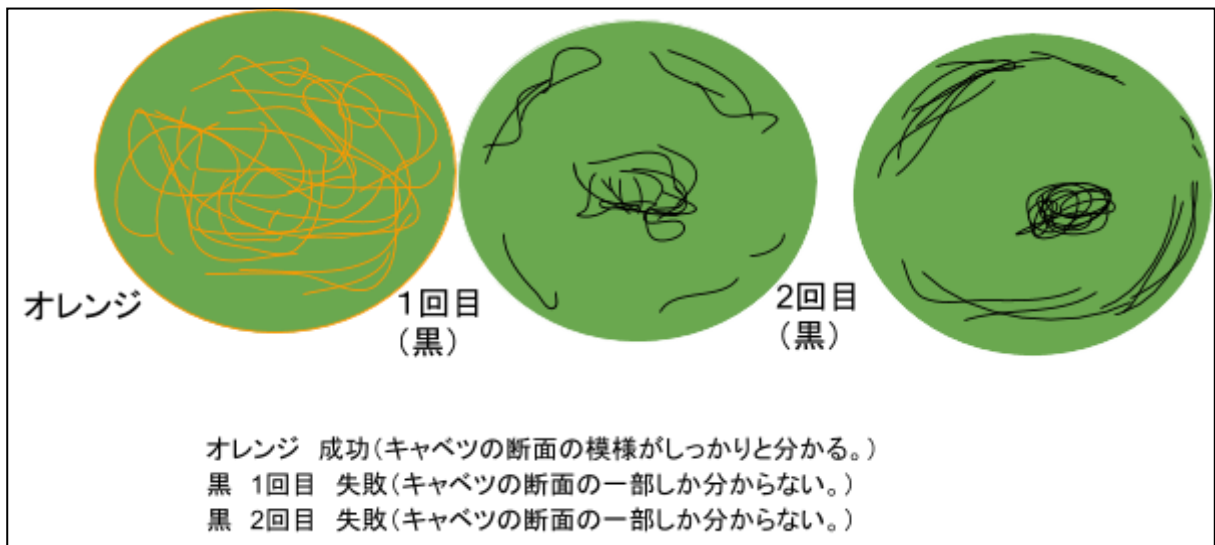


図1 スタンプの結果

ふと、断面と断面を合わせてみると、坂のように斜めになっていて、ぴったりと元通りに合わなかった。

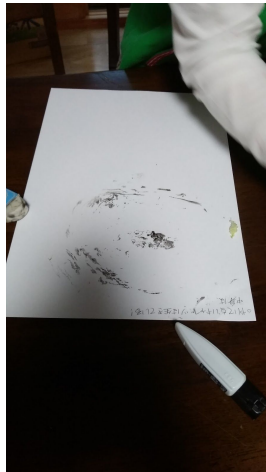


図-1①～③キャベツスタンプ（左から順に①押ししているところ、②黒、③オレンジ）

そのとき私はキャベツを置いておくとうなるんだろうと思い、一週間暗冷室に置いてみると、キャベツの断面からふくらみが出ていた。そのふくらみをふくらみAと呼ぶことにし、ふくらみAがどうしてできたのかを調べることにした。また、キャベツは切られた後も生きていう事実を知って、死んでいないならまだ育つはずだと考えたから、その事も含め、キャベツの実験を行うことにした。

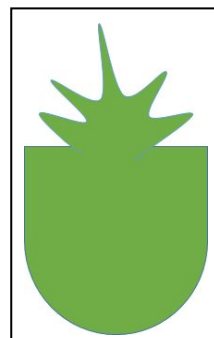


図2 ふくらみA (左：実物 右：モデル図)

## 2. 観察

私は、「1.はじめに」を受けて、半分に切る「切り方A」だけでなく、切り方B、C（参照【切り方の説明】）でキャベツを切って置くとさまざまなふくらみ（ふくらみB、C、D）が出たことを見つけた。

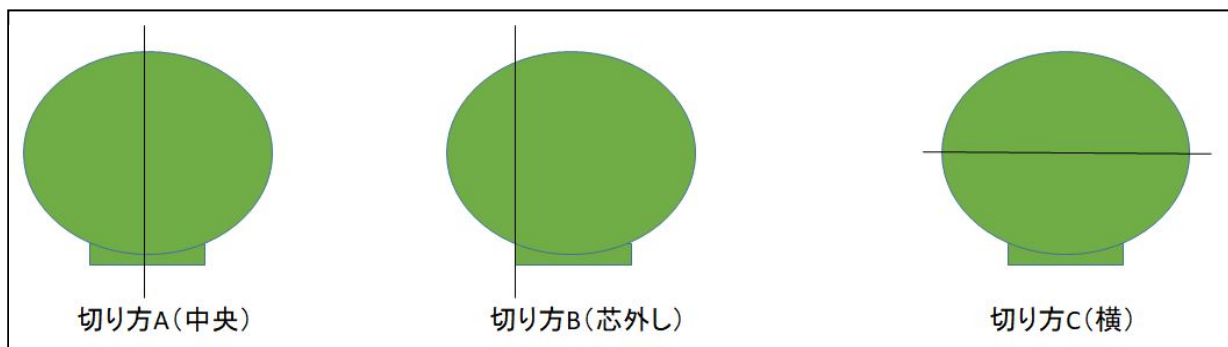


図3 切り方A、B、C

### 【ふくらみの説明】

ふくらみA：山型で大きなふくらみが1つできるもの  
ふくらみB：山型でふくらみが複数できるもの  
ふくらみC：切った直後からある、坂のように斜めにふくらんでいるもの  
ふくらみD：ピーナッツ型が4つできる

ふくらみA、B、Dはキャベツが育った（成長した）ものと考えており、ふくらみCは育ったものではなく、キャベツを切った時点であるものだと見て分かる。。

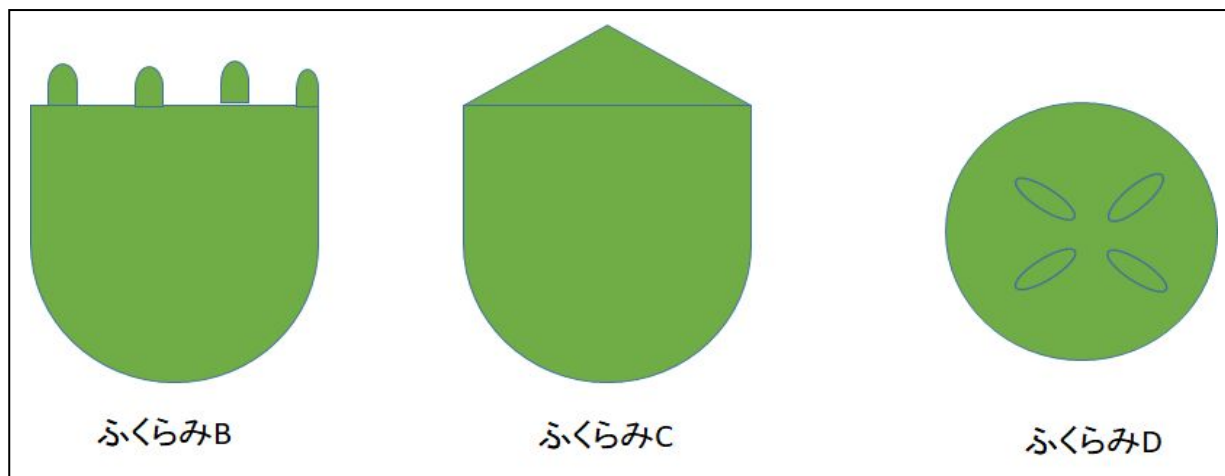


図4 ふくらみB、C、Dのモデル図

### 【切り方の説明】

切り方A：キャベツの芯を二分するようにする切り方  
切り方B：片方だけに芯があるようにする切り方  
切り方C：切り方A、Bが縦向きだとしたときに、横向きで半分にする切り方



図5 ふくらみB

そこで、①切り方A、切り方B、切り方Cの3つの切り方についてと、②キャベツのふくらみが更に育つための要因だと考えた水と日光の2つの条件について調べることにした。この実験では、全てのキャベツを暗冷室に置くこととした。この実験には、計測も含め、約3ヶ月ほどかかった。

観察の際には、区別しやすいように、また、記録しやすいように、キャベツ1つ1つに番号を書いたガムテープを貼っておくことにした。また、表にある暗冷室は、直射日光が当たらず、室温を一定の温度を保っている。

結果は、切り方AとBはふくらみAが出た。どの切り方でもふくらみDは出なかった。

表1 観察の結果

| 番号 | 切り方 | 保管場所 | 置いた期間(日) | ふくらみA | ふくらみB | ふくらみC | ふくらみD |
|----|-----|------|----------|-------|-------|-------|-------|
| 1  | B   | 暗冷室  | 21       | ○     | ×     | ○     | ×     |
| 2  | B   |      | 21       | ○     | ×     | ○     | ×     |
| 3  | C   |      | 21       | ×     | ○     | ○     | ×     |
| 4  | C   |      | 21       | ×     | ○     | ○     | ×     |
| 5  | A   |      | 21       | ○     | ○     | ○     | ×     |
| 6  | A   |      | 21       | ○     | ○     | ○     | ×     |
| 7  | B   |      | 7        | ○     | ×     | ○     | ×     |
| 8  | B   |      | 7        | ○     | ×     | ○     | ×     |
| 9  | C   |      | 7        | ×     | ×     | ×     | ×     |
| 10 | C   |      | 7        | ×     | ×     | ×     | ×     |
| 11 | A   |      | 7        | ○     | ○     | ○     | ×     |
| 12 | A   |      | 7        | ○     | ○     | ○     | ×     |
| 13 | C   |      | 14       | ×     | ○     | ×     | ×     |
| 14 | C   |      | 14       | ×     | ○     | ×     | ×     |
| 15 | A   |      | 14       | ○     | ○     | ○     | ×     |
| 16 | A   |      | 14       | ×     | ○     | ○     | ×     |
| 17 | B   |      | 14       | ○     | ○     | ○     | ×     |
| 18 | B   |      | 14       | ×     | ○     | ○     | ×     |

### 3.キャベ長計づくり

キャベ長計とは、キャベツの大きさを測る身長計のようなものである。いつもキャベツの大きさを測るのに時間がかかっていたので、早く正確にキャベツの大きさを測れるようにするために作った。また、誰が測っても同じように計測することができ、同じ結果になるようにするため、これを作ることにした。

#### 3.1.準備物

- ・ 段ボール
- ・ 芯（キッチンペーパー）
- ・ 長さのめもりがプリントされたマスキングテープ
- ・ セロハンテープ
- ・ カッターナイフ

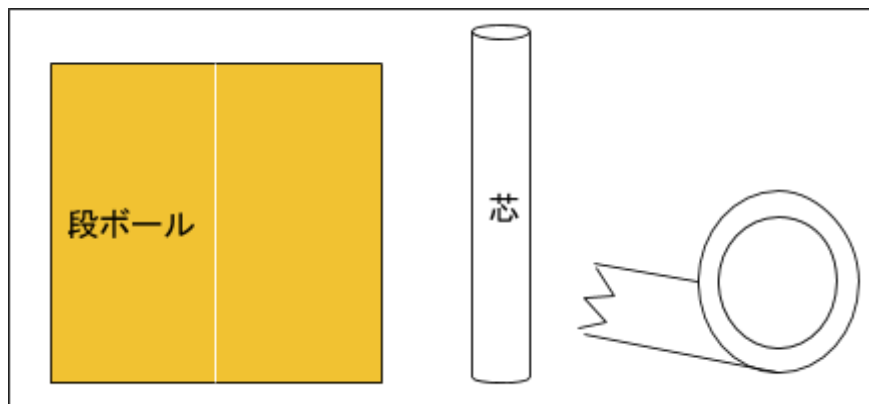


図6 用意するもの

#### 3.2.作り方

準備したものを次の手順で組み立て「キャベ長計」を作った。

- ① 段ボールを切り開いて図6のように四角く3つに切る。

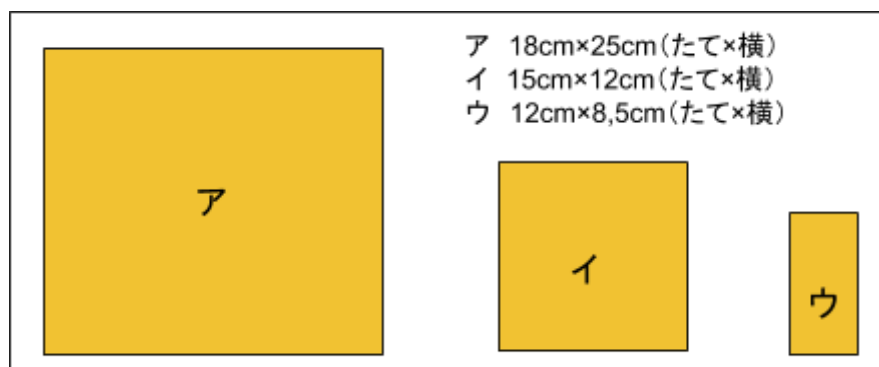


図7 段ボールの大きさ



- ② ウに図7のように丸い穴をあける。穴をあけるときはキッチンペーパーの芯をウの段ボールに当てて型をとる。とった型にそってカッターナイフで切り取る。

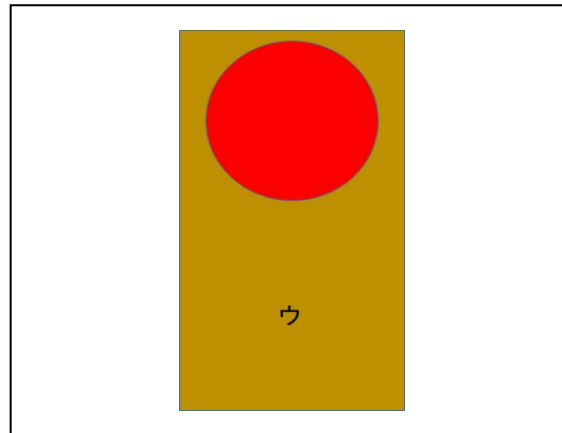


図8 ウの穴をあける部分（赤い部分が穴をあける部分）

- ③ 芯の側面にマスキングテープをはる。マスキングテープは、キャベツの大きさを測るのに必要なミリメートル刻みの目盛りがついたものを貼る。取れないようにしっかりセロハンテープではる。
- ④ 芯にウの穴を通し、芯の上はイをはる。芯の下はアをはる。

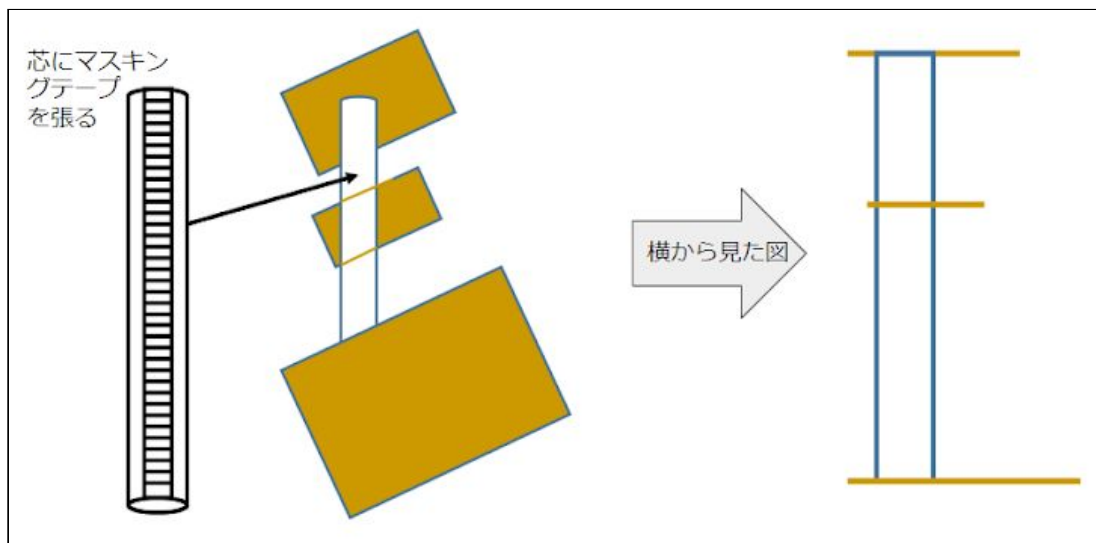


図9 完成図



図10 キャベ長計を使って計測をしている様子

これ以降実験にはキャベ長計を用いてキャベツの大きさを測ることにした。また、後の実験で、キャベ長計を使うことが有効だと実感されている。

## 4.実験1（成長の要素）

私が二年生の頃に野菜を育てたとき、先生が、「朝学校に来たら、毎日水やりしてな。」と言っていたのを思い出した。だから、自分が切ったキャベツも水をあげたらもつと育つのではないかと思った。そのため「2.観察」を受けて、本実験においても水分量に関する実験を行うことにした。

また、理科の授業では、植物を育てるときは発芽の条件（空気を与えることと、水をあげること）に加え、日光が必要だと習った。だから、切った後のキャベツの成長にも関わると考え、日光に関する実験を行うことにした。

### 4.1.水分量に関する実験

水をかける（霧吹きする）ことでキャベツの成長に影響がどれくらい出るのか、調べることにした。霧吹きをするものとししないものでふくらみの大きさに違いが出るのかを検証をした。実験の手順は以下のとおりである。

- ① キャベツを切り方Aで切る。
- ② キャベツの断面に霧吹きする。霧吹きする量は実験するキャベツによって変える。回数は、0回、5回、10回とする。
- ③ 霧吹きするものとししないものに分け、段ボール箱に入れて置いておく。
- ④ 一週間ごとにキャベツ全体の大きさの計測をする。

#### 【実験終了の目安】

- ・実験開始から二週間経ってもふくらみが出ていなかったら捨てる。
- ・ふくらみが出たときから5日後を最終計測日とする。  
(カビが生えていてさわれないと判断した時は、即時捨てることにした。)

表2 水噴射をしたキャベツの大きさの変化

| 実施期間               | 霧吹きの回数<br>〔回〕 | 番号 | 計測初回の大きさ<br>〔mm〕 | 計測2回目の大きさ<br>〔mm〕 | 増減の大きさ<br>〔mm〕 |
|--------------------|---------------|----|------------------|-------------------|----------------|
| 2020/6/5-6<br>/12  | 0             | 1  | 88               | 95                | 7              |
|                    | 0             | 2  | 75               | 67                | -8             |
|                    | 5             | 3  | 88               | 80                | -8             |
|                    | 5             | 4  | 78               | 73                | -5             |
|                    | 10            | 5  | 96               | 97                | 1              |
|                    | 10            | 6  | 70               | 60                | -10            |
| 2020/6/19-<br>6/26 | 0             | 7  | 65               | 75                | 10             |
|                    | 0             | 8  | 83               | 101               | 18             |
|                    | 5             | 9  | 66               | 65                | -1             |
|                    | 5             | 10 | 80               | 80                | 0              |
|                    | 10            | 11 | 122              | 95                | -27            |
|                    | 10            | 12 | 86               | 90                | 4              |

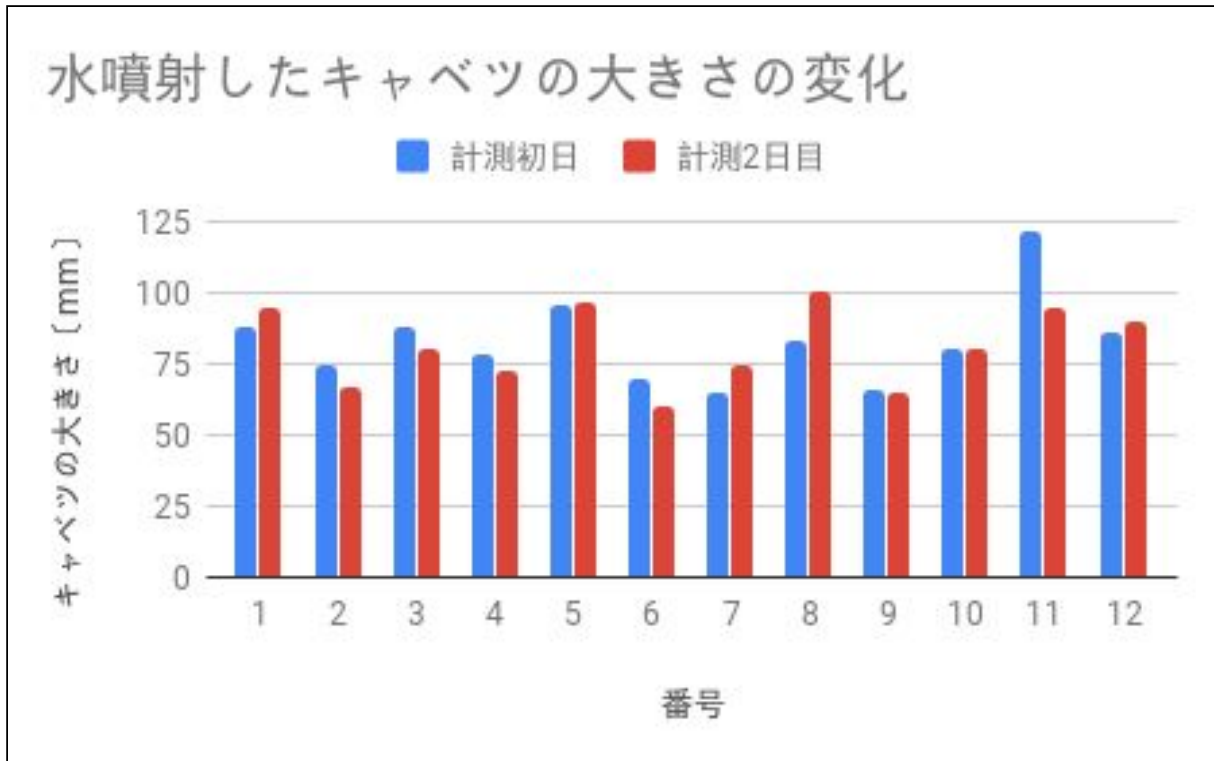


図11 霧吹きで水噴射をしたキャベツの大きさの変化

- 水分を与えてもあまり変化がなく、大きく育っているものは少なかった。逆に小さくなっているものもあった。小さくなっているものは、全体の50%だった。大きくなっていないものがあるということは、切ったあとのキャベツに水分を与えてもあまり効果がないと考えられる。小さくなっていたものがある理由として、同じ箱に複数のキャベツを入れて置いておいたからではないかと考えた。同じ箱に入れておくことで、キャベツの断面についていた水滴がたれて他のキャベツにかかってしまい、かける水の量が増えてしまった、減ってしまったなどということが考えられる。このことを調べる方法として、キャベツを1つ1つ別々の箱に入れて行う実験をすると良いのではないかと考えた。

## 4.2.日光に関する実験

日光を当てることでキャベツの成長に影響がどれくらい出るのか、調べることにした。日光を当てるものと当てないものでキャベツの大きさに違いが出るのかを検証をした。

- ① キャベツを切り方Bで切る。
- ② キャベツを日光に当てるものと当てないものに分けて置いておく。
  - ・日光に当てるもの→段ボール箱にいれ、ふたをあけて日光の当たる場所に置いておく。
  - ・日光に当てないもの→段ボール箱にいれ、ふたをしっかりとガムテープでとめて置いておく。
- ③ 1週間ごとにキャベツの大きさの計測（下図参考）をする。

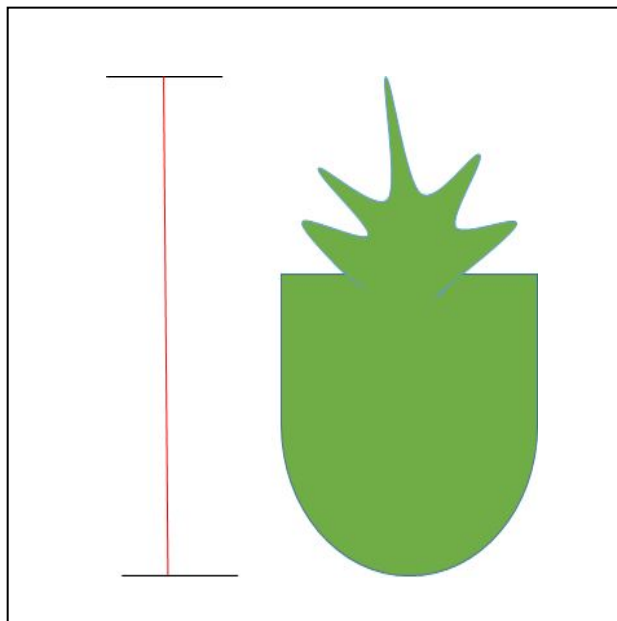


図12 計測について測る部分（赤い線の長さ＝キャベツの大きさ）

### 【実験終了の目安】

- ・実験開始から二週間経ってもふくらみが出ていなければ捨てる。
- ・ふくらみが出たときから5日後を最終計測日とする。  
(カビが生えていてさわれないと判断した時は、即時捨てることにした。)

結果を以下に示す。

表3 日光に当てたキャベツの大きさの変化

| 実施期間               | 番号 | 芯  | 条件   | 計測初回<br>[mm] | 計測2回目<br>[mm] | 計測3回目<br>[mm] |
|--------------------|----|----|------|--------------|---------------|---------------|
| 2019/6/11-<br>6/14 | 2  | なし | 日光なし | 63           | 63            | —             |
|                    | 4  | なし |      | 57           | 38            | —             |
|                    | 6  | なし | 日光なし | 57           | 48            | —             |
|                    | 7  | なし |      | 55           | 55            | —             |
|                    | 10 | なし | 日光なし | 58           | 52            | —             |
|                    | 12 | なし |      | 56           | 45            | —             |
|                    | 14 | なし | 日光なし | 77           | 69            | —             |
|                    | 16 | なし |      | 55           | 51            | —             |
|                    | 18 | なし | 日光なし | 48           | 44            | —             |
|                    | 20 | なし |      | 44           | 37            | —             |
|                    | 1  | あり | 日光なし | 116          | 106           | —             |
|                    | 3  | あり |      | 119          | 103           | —             |
|                    | 5  | あり | 日光なし | 118          | 110           | —             |
|                    | 8  | あり |      | 91           | 80            | —             |
|                    | 9  | あり | 日光なし | 104          | 104           | —             |
|                    | 11 | あり |      | 93           | 87            | —             |
|                    | 13 | あり | 日光なし | 104          | 100           | —             |
|                    | 15 | あり |      | 98           | 66            | —             |
|                    | 17 | あり | 日光なし | 105          | 95            | —             |
| 19                 | あり |    | 57   | 89           | —             |               |
| 2019/6/28-<br>7/12 | 2  | なし | 日光なし | 65           | 67            | 70            |
|                    | 4  | なし | 日光なし | 59           | 61            | 63            |
|                    | 6  | なし | 日光なし | 52           | 62            | 59            |
|                    | 7  | なし | 日光なし | 96           | 105           | 104           |
|                    | 10 | なし | 日光なし | 65           | 56            | 64            |
|                    | 12 | なし |      | 65           | 65            | 61            |
|                    | 14 | なし |      | 70           | 62            | 67            |
|                    | 16 | なし |      | 60           | 53            | 55            |
|                    | 18 | なし |      | 62           | 52            | 51            |
|                    | 20 | なし |      | 55           | 50            | 45            |
|                    | 1  | あり | 日光なし | 111          | 113           | 104           |
|                    | 3  | あり | 日光なし | 122          | 118           | 107           |
|                    | 5  | あり | 日光なし | 106          | 126           | 124           |
|                    | 8  | あり | 日光なし | 69           | 63            | 65            |
|                    | 9  | あり | 日光なし | 107          | 105           | 113           |
|                    | 11 | あり |      | 124          | 102           | 115           |
|                    | 13 | あり |      | 120          | 109           | 111           |
|                    | 15 | あり |      | 125          | 112           | 21            |
|                    | 17 | あり |      | 130          | 129           | 28            |
| 19                 | あり |    | 115  | 120          | 113           |               |

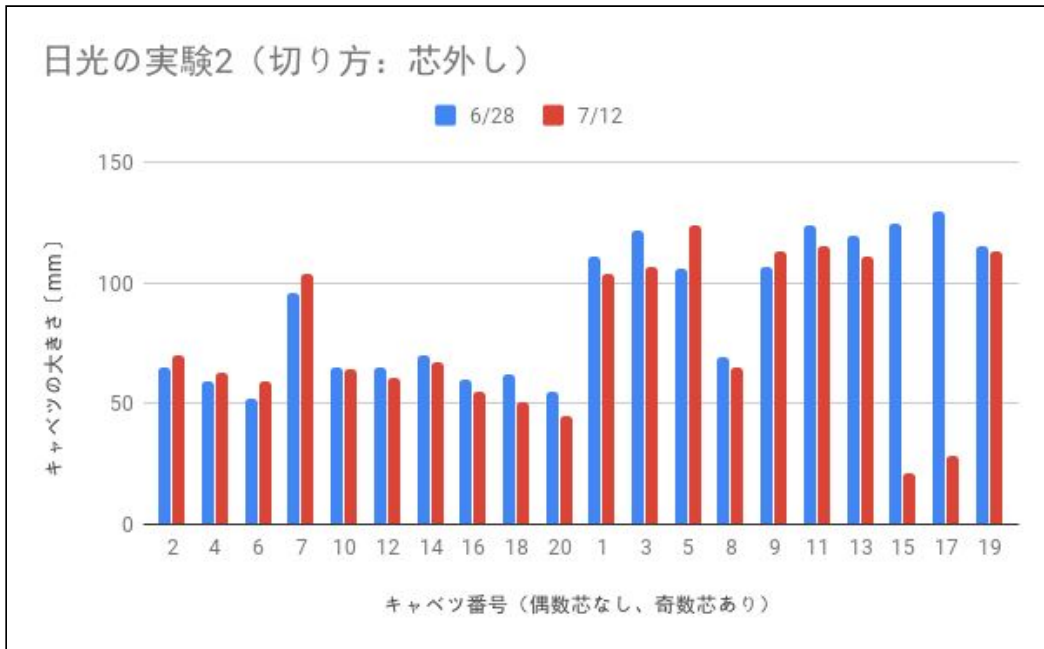


図13-1 日光に当てたキャベツの大きさの変化

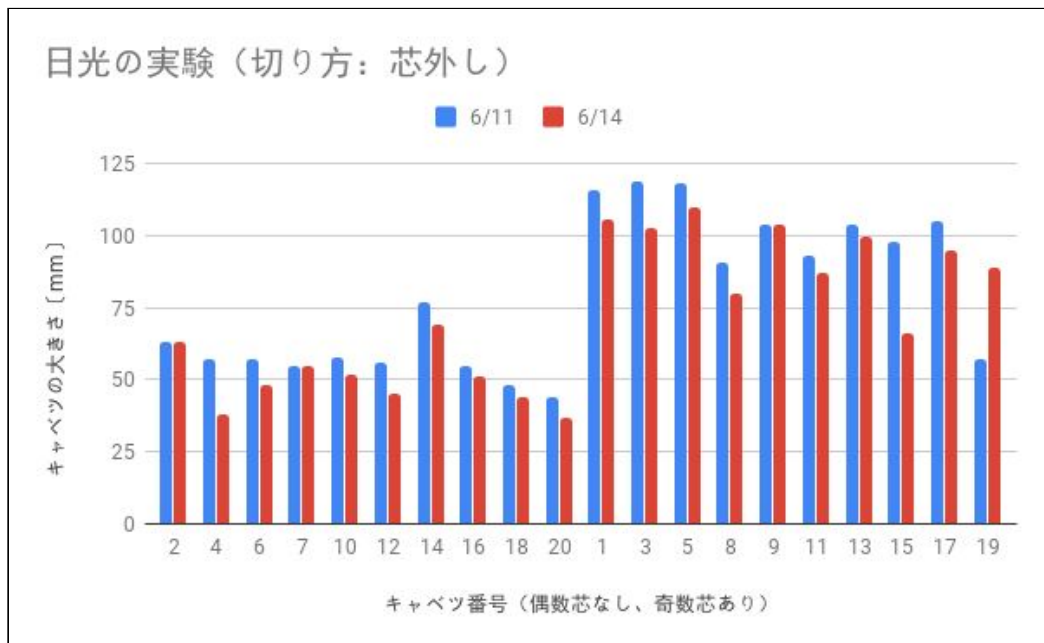


図13-2 日光に当てたキャベツの大きさ

- 日光の実験の結果には、①一度小さくなってから大きくなったもの、②最終計測日に小さくなっていたものがあった。ずっと大きくなり続けたものもあったが、全体の75%が小さくなっている。小さくなった原因の一つとして、日光の熱（外の温度）により乾燥して、縮んだのではないかと考えた。また、乾燥の影響による縮みの方が日光の影響による生長よりも大きいと考えた。このことを調べる方法として、日光に当てないものはそのまま暗冷室に置いておいて、日光に当てるものは時々日光に当たらないところに持って行って、乾燥しないようにする。つまり、日光に当てる時間によるふくらみの生長の大きさを比べるといいと思う。
- キャベ長計で測ったおかげで、大きくなったか小さくなったかがよりわかりやすくなった。



## 5.実験2（切り方）

キャベツを置いておくときのキャベツの切り方が変わったら、キャベツの大きさ、ふくらみの種類に変化が出るのかを調べるために、この実験をした。

切り方Aで切ることで、ふくらみA、B、Dが出るかどうかを調べることにした。また、ふくらみA、B、Dが出るかどうかだけでなく、キャベツの大きさ、できるふくらみの種類に変化があるかを調べる。

なお、キャベツの切り方Bも同様に、ふくらみの種類と大きさについて調査することにした。

- ① キャベツを切り方A（および切り方B）で切る。
- ② 暗冷室に置いておく。
- ③ 1週間後キャベツの大きさの計測をする。

### 【実験終了の目安】

- ・ 実験開始から二週間経ってもふくらみが出ていなかったら捨てる。
- ・ ふくらみが出たときから5日後を最終計測日とする。  
(カビが生えていてさわれないと判断した時は、即時捨てることにした。)

表4 切り方に関するキャベツの大きさの変化

|      | 番号 | 条件   | 保管場所 | 2020年3月13日 | 2020年3月20日 | 2020年3月27日 | 出たふくらみ |
|------|----|------|------|------------|------------|------------|--------|
| 切り方A | 4  | 日光なし | 暗冷室  | 109        | 106        | 126        | A      |
|      | 5  |      |      | 90         | 93         | 90         |        |
|      | 6  |      |      | 100        | 97         | 104        |        |
| 切り方B | 1  | 日光なし | 出窓   | 110        | 120        |            |        |
|      | 2  |      |      | 105        | 103        |            |        |
|      | 3  |      |      | 90         | 97         |            |        |
|      | 4  |      |      | 109        | 106        |            |        |
|      | 5  |      |      | 90         | 93         |            |        |
|      | 6  |      |      | 100        | 97         |            |        |

- この実験の結果は、切り方A,B全てふくらみAが出た。この結果から、切り方A,Bは、どちらもふくらみAが出るということが分かる。切り方Aに関しては、3個しか実験を行っていないため、必ず出るとは限らないが、はじめ（「2.観察」）に行った観察での実験ではほとんどの切り方Aのキャベツに膨らみAが出ていた。これらをふくめると、約87%の確率でふくらみAが出ることになる。

- 「2.観察」の時点で出ていたふくらみBが出ていない理由として、切り方実験は3月の春に行っているのに対し、「2.観察」での実験は7月くらいの夏に行っている。つまりこのことから、ふくらみBが出る条件は、気温が高いことだと考えられる。

- 切り方の実験では、切り方Cの実験は行わなかった。「2.観察」の時点でふくらみDは切り方Cのときにしか出ないことが確認できているが、切り方A,Bのように正確な数字が出せるほど実験をしていないので、また機会があれば実験したいと思う。

## 6.結論と総合考察

以上の実験から次のようなことが言える。

- 水分量に関する実験では、霧吹きをしたキャベツの半分が小さくなったから、水をかけてもあまり効果がない。
- 日光に関する実験では、日光に当てたキャベツの中に小さくなっているものがあったから、暑さにより縮んでしまった。
- キャベ長計は、キャベツを計るときにとっても役に立った。

これまでの日光の実験をしていて分かった、キャベツのふくらみが大きくなりやすい条件は、そのキャベツに芯があることでもある。キャベツは、切ったあとも生きていて、その後も死ぬまでは成長し続ける。だから、植物の成長に必要な日光と水分を与えれば、もっと大きく育つと思っていた。日光と水分の実験を同時に行い、切り方Bだけで実験をして、芯がある方とない方で、どちらが大きくなるかを実験すると良いと思う。

## 7.愛着について

私は実験をしている間に、キャベツに対して愛着を感じた。それは、母に誘われスーパーマーケットに行くとなんだかキャベツが可愛らしく見えたのがきっかけだった。習い事（oranje）の先生とそのことを話している中で、「キャベツ星人」という謎の生物を思いついた。こんな風にキャベツをキャラクターにして、それを「可愛い」という人は、私くらいだと思う。そうして、キャベツに対する私の気持ちは、「ただの『好き』ではないのでは？」と思った。私は、毎週のようにキャベツを切って、キャベツの大きさの計測を繰り返していた。人が何か大きなことを成し遂げたときに愛着を感じるのだと私は思う。キャベツに対する私の気持ちは、「愛着」と言えるのではないか。私はこれまで、キャベツ全ての計測にとっても時間がかかった。でも、その苦労があったからこそその愛着だと思う。

キャベツがなかったらこの実験はできていないということになる。この私とキャベツの関係を一言で表すと、「相棒」と言えるのではないかと考えた。だから、その愛着についてふかめるために、キャベツの男の子が主人公の漫画を描いた。描いた漫画は資料として巻末に添付する。



図14 漫画を描くようす

相棒との関係（愛着）について調べるために、私は漫画を描いてみた。描いた漫画からセリフを抽出した。具体的にいうと、漫画に出てくるセリフの数とそのセリフの種類分け（F数、NF数、Fの中の自分が実際に言った言葉の数）をした。



図15 自作の漫画のセリフから愛着の要素を抽出するようす  
種類わけの結果は以下のとおりである。

表5 4コマ漫画の吹き出しの数

| タイトル        | 抽出項目 | 結果               |
|-------------|------|------------------|
| 先生ですか？      | ・ 状況 | 学校（F／素直さ）        |
| ずーん、、、なのです。 | ・ 状況 | 学校（F／友達の実話への前触れ） |
| ずーんの真実です。   | ・ 状況 | 学校（NF／友達の実話）     |
| Jの真実です。     | ・ 状況 | 学校（F／タネ明かし）      |

（F：フィクション、NF：ノンフィクション）

表6 長編漫画の吹き出しの数

| 漫画番号                  | 1        | 2             | 3         | 4          | 5       |
|-----------------------|----------|---------------|-----------|------------|---------|
| タイトル                  | はちあわせです。 | ハチバスターズ、出勤です。 | 先生キライ!です。 | はやりのゲームです。 | 先生観察です。 |
| 抽出項目                  | 状況、セリフ   | 状況、セリフ        | 状況、セリフ    | 状況、セリフ     | 状況、セリフ  |
| 状況                    | 学校+学校外   | 学校            | 学校        | 学校         | 学校      |
| 吹き出しの数 ①<br>〔個〕       | 32       | 25            | 30        | 25         | 32      |
| ①中のF数<br>〔個〕          | 29       | 16            | 24        | 22         | 30      |
| ①中のNF数 ②<br>〔個〕       | 3        | 9             | 6         | 3          | 2       |
| ②中の<br>自分のセリフ数<br>〔個〕 | 3        | 2             | 2         | 2          | 1       |

（F：フィクション、NF：ノンフィクション）

長編漫画だと、どの漫画にも自分が実際に言った言葉が必ず入っている。また、どれも自分が実際に学校などであったことを題材にしている。つまり、私とキャベツの子どもたちを重ね合わせて考えている、ということになる。その考え方が、「愛着」と言えると考えた。

## 8.自己分析

私はピアノが好きで、毎日欠かさずピアノを弾いている。ピアノは始めた当初はとても楽しかった。保育園の頃からやっていたので、ピアノ教室ではクラスメイトみんなでダンスを踊ることもあり、とても楽しかった。しかし、だんだん年齢が上がってくにつれて、やることも増え、演奏する曲の楽譜も難しくなってくると、もういやだな、やりたくないな、と諦めてしまうことがあった。私には、そういうところがある。ぱっと見で難しいと判断するとピアノでも勉強でもなんでもすぐに諦めることがあった。だから、大好きなピアノでも、やりたくなる時期があった。これを乗り越えるのには時間がかかった。そんな自分を直したのは、ピアノ教室の先生だった。ある日、とても大好きだった先生が別の場所へ行ってしまうと聞いた。今までの先生への感謝をこめて先生に喜んでくれたらいいなと思いながらたくさん練習した。その割にはなかなか上手くは弾けなかった。でも、自分の中では精一杯頑張れたと思った。その後も昔からの「すぐに何でも諦めてしまう癖」はなかなかおらず、何度も練習をしたくなくなるときもあった。だけど、そのたびに先生のことを思い出し、乗り越えてきた。毎日の練習のおかげで、弾ける曲も増え、弾ける曲が増えると、うれしくなる。こうして練習を続けることで、弾ける曲がたくさん増えた。それが、とてもうれしかった。もう前の先生はいないけれど、自分なりに楽しんでいる。これからも楽しみながらピアノを続けていこうと思っている。少し、自分の悪い癖も無くなってきているんじゃないかと思っている。

私には、他にも楽しんでやっていることがある。それは、漫画を読むこと、描くことである。漫画は、私が小学2、3年のときに出会った。いところが漫画雑誌を持っていて、興味があったので読んでみた。すると、その雑誌に掲載されていた漫画のストーリーが予想以上に面白かった。付録も豪華だったので、そのときから毎月毎月お小遣いをためて買っていた。女の子向けの漫画だったので、恋物語がほとんどだった。「こんな恋したいなあ。」と思い、その漫画に少しニヤニヤしながら見ていた。そのうち、その雑誌を買うことはやめた。また別の面白い漫画を見つけては読み、また見つけては読むを繰り返して、今では色々な漫画を買ったり借りたりしている。漫画を描くことには、小学3、4年の頃に出会った。休み時間に友達と絵を描いていたときに、友達の一人が漫画を描き始めた。私もやってみたいと思い、一緒に描いていた。自分であの雑誌に載っていたような漫画を描いていることがなんだかかっこいいなと思ったので、それからも続けてたくさん描いた。友達と自分が描いた漫画を交換して見せ合うのも楽しかった。特に心に残ったのは、自分が描いた漫画が意外に好評だったことだ。最近は4コマ漫画にも挑戦しているが、4コマでその物語の起承転結を収めるのが難しい。もっと考えて1コマ1コマを割り振った方がいいと思う。漫画のおかげで友達が増えたり、漫画を通すことで友達との話題が増えた。正直、漫画のおかげで今の私の生活があると言っても間違いではないと思う。

本論で、愛着を分析をするために、まんがを描くことは全然苦じゃなかった。むしろ、とても楽しかった。ただ、キャベツの男の子を主人公に話を進めていくのは予想以上に難しく、描くときに何度も、どんなストーリーにしようかと、とても悩んだときもあった。でも、自分が実際にあったことや、人から聞いたことを参考に漫画を描くことができた。ときには、学校の先生に思っていたことを漫画にかけて、スッキリしたこともあった。いつかは漫画を描くときにとても悩んだこともあったけれど、まんがを描くことは、本当に楽しかった。

このキャベツの実験を始める前は、私は比較的家に居たい人だった。でも、キャベツの実験を始めたことによって、キャベツに愛着を持つようになって、スーパーへよく行くようになった。それから、出かけるときスーパーなどのキャベツがない所でも、勧められたら、よく出かけるようになった。キャベツの実験を始めたおかげで出かけることが増え、近所の人やたまたま外で会う友達、さらには祖父母の近所の人など色々な場所での色々な人との関わりも増えた。キャベツの実験は、最初ただ気になった事を調べて、なぜそうなるかを詳しく知りたかったただけだが、こんなに自分の生活が変わるとは思っていなかった。

以上を踏まえて、私の日常生活を整理してみる。

私にとって、ピアノとは自分の体の一部のようなものである。小さい頃からやっていて、今ではピアノがない家は自分の家ではないと感じるようになった。

また、漫画は自分のなくてはならないものだと感じている。もちろんピアノも勉強もなくてはならないけれど、読むだけで勉強などで疲れた自分を癒やしてくれるもので、その意味でなくてはならないと思う。

キャベツの実験は、自分の愛着について気づかせてくれたものだと思っている。キャベツの実験をしているうちにいつの間にか変わっていたキャベツへの思いが、私が感じている身の回りのものに対する愛着について気づかせてくれた。

勉強は、大切なものだけれど、正直私はやりたくないと思っている。確かに生きていく上で文字はかけなくてはならないから、最低限勉強はしなくてはならない。けれど、その勉強をするためにいつも遊ぶ時間を削っている。だから、あまり勉強は好きではない。

この4つを自分の楽しさで位置付けると、

- 1,ピアノ（自分と一体化）
  - 2,漫画（エンタメ）
  - 3,キャベツの実験（愛着）
  - 4,勉強（義務）
- になる（右図）。

私は、大体この4つで生活している。楽しくないと感じるものもあるが、その中からも楽しさを見出しながら生活している。

この自己分析で、改めて自分のものに対する思いを知ることができた。ピアノのことも漫画のことも、前から大好きだったことは知っていたけれど、まさかそこまで大切なものだったとは知らなかった。ピアノに関しては、そこまで私がピアノにのめり込んでいっていたなんて、知らなかった。この自己分析で、たくさんの知らなかった自分に気付いて、なんだか嬉しかった。

